

### 建学の精神 EST. 1935 (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

<b>普通科</b>	<b>看護科</b>	<b>商業科</b>
特進コース	看護科	商業コース
普通コース	看護専攻科	美容専科コース
健康福祉コース		製菓衛生師コース
保育コース		
インターコース		
一貫コース		

#### 入学式・進級式

平成27年度

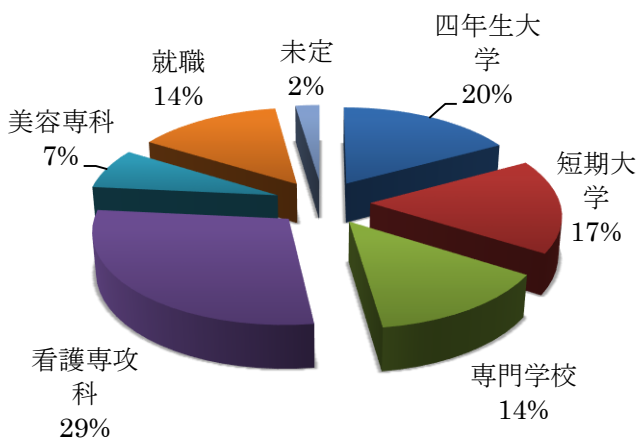
#### 創立記念式

4月9日(木)、平成27年度入学式・進級式が行われ、522名の生徒・学生が入学を許可され晴れて愛真生としてのスタートを切りました。中学校代表の梅木翼さん(浅木小)、高等学校代表の平戸航貴さん(大野東中)、専攻科代表の橋本唯さん(則松中)はそれぞれ校則を守り勉学に励むことを力強く誓っていました。また、今年度より応援団が結成され初代団長の藤田莉奈さんより新入生へこれからの頑張りにエールを送っていました。

4月24日(金)、創立80周年記念礼拝がありました。今年度の講師は、2000年シドニーオリンピック元新体操選手の山本(旧姓中島)理恵先生をお迎えし、「夢を持ち続けて!」と題して、オリンピックの代表選手に選ばれるまでの努力と大会までの厳しい練習の日々を語ってくれました。

講演中の  
山本理恵先生エールを送る  
団長の  
藤田莉奈さん当時のオリン  
ピック映像を  
鑑賞しました。

### 平成26年度 進路先分布



平成26年度(2014年度)進路状況に関して、分布図に示しています。今年度も就職に関しては**5年連続の100%**を達成しました。

美容専科コースを除く平成26年度国家試験の合格発表があり、介護福祉士は**3年連続の100%**を達成しました。また、他の科コースの結果も高い合格率となり、今年度への弾みとなりました。結果は下記の通りです。

国家試験	本校合格率	全国平均
看護師	93.9%	90.0%
介護福祉士	100%	64.6%
製菓衛生師	95.7%	70.0%

## 製菓衛生師コース

4月23日(木)、1年生対象に器具授与式がありました。これから3年間実習で使用するホイッパー、しぼり袋、パレットナイフ、ペティナイフ、口がねを窪田先生より一人ずつ手渡されました。



生徒一人ひとりに器具を授与されている窪田先生



4月23日(金)、3年生による歓迎会がありました。実習で作った洋菓子や和菓子を1年生の為にそれぞれが分担して作り上げた作品に舌つづみを打ちながら、「早くこのような作品を作りたい」と感想を述べていました。

4月20日(月)～22日(水)の3日間、2年生対象の製パン実習がありました。例年、講師に武藤欣弥先生をお迎えし、15種類の菓子パンや調理パンを作っていました。

実習中の  
武藤欣弥  
先生



## お知らせ

今年度より、NHK学園高等学校の協力校として短期大学の校舎を提供することになりました。早速、4月19日(日)には本学園での第1回入学式が行われ11名の生徒が入学してきました。これから月に2回のスクーリング会場として使用されます。



## 新年度より新たに2つ部活動がスタート！

男子駅伝部と女子硬式野球部が4月よりスタートしました。男子駅伝部に5名、女子硬式野球部に18名の生徒を迎え日々練習に励んでいます。既に、女子硬式野球部は6試合の練習試合をこなし勝率5割をあげ夏の全国大会に向けて頑張っています。男子駅伝部も高校総体北部予選に向けて本城陸上競技場を中心に練習をしています。今後の両部活の活躍を期待します。



MSH医療  
専門学校との  
練習試合

## 「草創期の黒田藩と栗山大善」 黒田家と宇都宮家の抗争⑧

黒田の家臣達は城内に待機していた鎮房の家臣たちを討ち取り、さらに城内から逃れて、城下の合元寺に討報を知らせた家臣らも含めて、待機していた従士たちを追討、合元寺で激戦が展開され、全員を殺害されてしまいます。今でも、合元寺の庫裏の大黒柱に当時の刀傷が未だに残っていて、凡そ四百年前の凄惨な戦いの様子を彷彿とさせられるのですが、寺伝によると、この時の戦いによる鮮血が、寺の白壁に付着、その後、何度も塗り替えても、付着した人血が滲み出るので、赤色に塗り替えたとい、現在では赤壁寺とも呼ばれています。鎮房六十一才、朝房十九才だったと云います。この時の様子を、合元寺内の寺の由緒に次のように伝えています。

『赤壁、合元寺通称「赤壁」と云われこの寺は浄土宗西山派、開山空誉上人は天正十五年(1587)黒田孝高(如水)に従って姫路から中津に来錫した。その後、天正十七年四月、孝高が前領主宇都宮鎮房を謀略結婚により中津城内に誘殺したとき、その従臣らが中津城を脱出し、この寺を拠点として奮戦し、最後をとげた。以来、門前の白壁は幾度塗り替えても、血痕が絶えないので、遂に赤色に塗られるようになった。当時の激戦の様子は、現在も庫裏の大黒柱に刀痕が点々と残されている。また、戦死した宇都宮家の家臣は合葬し、寺内の延命地藏菩薩堂に祀り菩提を弔った。』

その空誉上人(後述の案養寺紅陽僧侶が空誉上人だと推測されます)は宇都宮鎮房の庶子だったと云われ、文武の道に秀で、世人の宗敬が篤かったため、後事を恐れ、慶長十六年(1611)黒田長政に福岡城で誘殺されたと云う哀史を秘めた寺である。』

源頼朝から下知され、関東から九州入りして凡そ四百年にわたって豊前の領地を統治してきた名門宇都宮家にとっては、素性の知れない成り上がり者秀吉・官兵衛の軍門に下ることは、宇都宮の誇りが許さない思いが、結果として宇都宮家を失うこととなります。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大善」より